

**令和6年度 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
審査結果表**

大 学 名	東北大学	タイプ	I：地域等連携型
プ ロ グ ラ ム 名	共創型国際共修を核とする包括的国際化の新展開と社会価値創造		
連 携 大 学 等	—		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、従来から取り組んでいる国際共修カリキュラムを多層化し、国際化に向けて学びのタイプや活動の複雑性を踏まえて体系化しようとする意欲的なものである。その展開に当たっても、大学の強みを生かした6つの学際的なクラスターをベースに日本人学生と外国人学生の共修をさらに発展させ、日本及び世界で活躍できる人材を育成するというプログラムの目的は明確であり、なおかつ国際共修科目を提供していくという大学全体を包括した発想は優れた計画となっている。とりわけ「グリーン未来社会創造」と「グローバル課題解決」の2つのクラスターは、貴学ならではのプログラムであると言える。さらには、共修成果を可視化する上で必要な評価手法が設定されているなど、本プログラムを実施する上で、これまでの経験や要素が十分に備えられている。

また、喫緊の課題として認識されている日本人学生の留学意欲の低さを解決するために、外国人学生との協働や、多文化共修リテラシーの習得機会の提供、国際共修のための外国人教員を含むカリキュラム・コーディネータの配置やガイドブックの制作など具体的対策が講じられている点も、課題解決の期待が持て評価に値する。さらにネットワーク強化のために、海外アルumnai組織との連携や顕著な業績を有する同窓生を顕彰する「東北大学国際功労賞」の創設などを行ったり、外国人留学生の定着促進に向けた取組みのために「東北高度外国人材活躍推進コンソーシアム」なども起動したりしており、プログラムの具体的な出口への工夫も行われている。

一方で、これだけ素晴らしいプログラムを提供する6つのクラスターに対して、多文化共修科目の最終年度目標は1クラスターあたり20科目程度であり、特に博士前期課程と後期課程では1クラスターあたり1科目ないし0.5科目と極めて少ない。学部を中心とする事業であるとは言え、プログラムの内容を十分に実施するためには、多文化共修科目構築の難しさを踏まえても、全学的により多くの科目の構築を目指してほしい。

最後に、今回選定された貴学においては、世界や地域の課題解決に資する人材を育成するため、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動を、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを強く要請する。